
10000年の冬眠

yuzoku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

10000年の冬眠

【Nコード】

N1942Q

【作者名】

yuzoku

【あらすじ】

簡潔に言つと、？凍る？能力を持つてる以外は普通の主人公が過ごすゆるゆるの大学生活です。普段はどこにでもいるような大学生だった主人公がある日にSFちっくなイベントが起きたあと、これまでは違う日常に変化していきます。最終的にはある教授が行っている研究のため？冬眠？することになります。

「流賊やつてる龍族の少年」の1万年前の世界を描いており、？族？や？賊？が生まれた背景なんかも触れていければと思います。

朝から目の覚めるような話

授業中の居眠りってなんであんなに気持ちいいんだろう？

少年期を過ぎてしまった21才になってもその疑問がいつも頭の中にある、ある一人の青年がいた。

彼の名前は永瀬冬哉^{ナガセトウヤ}。都内にある某大学の3年生。ちなみに通っている学校は？赤い門のある東京の大学？では決してなく、彼は見た目も性格も学力も？まあまあ良い方？といったところだ。大学生の午前10時頃といえば授業で一生懸命ノートをとってる真つ最中。のはずだが、彼は電車の中で音楽を聴きながら居眠り中。季節は、年も明けて普通の人はお正月気分が抜けきった頃。東京にもぼつぽと雪が降り出している中、同級生の友達は就職活動に走り回っている。それに比べて彼は、今は駅の構内をのんきに歩いている。もちろん就職活動の「し」の字もやっていない。

「おはよう、トウヤ！」

「おはよう。」

「ていうかオイ、もう1時限終わったぞ！もしかしてまた電車寝過ごしたのか??」

「うん、ごめんまたあとでノート見せて。」

朝からテンション高めなのは友達カラサワシユンの唐沢俊。生粋の関東人でいつも明るく、交友関係も広い。地方の高校から上京してきたトウヤにとつては大学の同級生で親友と呼べる唯一の存在だ。

「そっぴや、聞いたか？物理学科のナントカっていう教授が研究のためにバイト募集してるらしいぞ。」

「どうせアレだろ??薬の実験役を1日やって1万円?とかいうや

つ。」

「それが今回は違うらしいんだよ!! まあなんかの薬も使っただけ、それ以上にスゲエのが研究内容がなんと1年間冬眠だった! しかも日給3万だから、1年後には1000万円!!!」

「1000万!? そりゃスゴイけど、でも1年間棒に振るのはもったいない気がするなあ。」

「? Mr. のんびり屋? がよく言うぜ。そういえばトウヤさあ、単位足りなくて留年決定だろ?」

「まあそうだけど、今さらナニヨ?」

「このバイトやると大学が単位10コ分も認めてくれてるらしいぞ! そんなに貰えりゃお前もあと1年がんばるだけで卒業できんじゃないん?」

「うんうん。」

「? 2回目の3年生? をがんばるよりも、1年寝て過ごせるほうが楽じゃん!」

「あゝたしかに。」

「それに冬眠だから眠ってる間は別に年取るわけじゃないし!」

「やべえ、だんだん冬眠したくなってきたあゝ!」

「じゃあさっそく研究室行ってきな! たしか場所はこの建物の7階だったはず。」

「おう、それではサラバだ、心の友よ!」

普段はおとなしいトウヤだが、シュンには今のように簡単にノセられてしまう。

「我ながら単純だなあ」とつぶやきながらトウヤは階段を上って行

つ
た。

お試し冷凍

「え、それでは諸君、まずは集まってくれたことに感謝します。君たちは勇敢にして賢明なるうんぬんかんねん…」

大学に入って知ったことだが教授って人種は思ったよりもものしくなく、思ったよりは気さくな印象の人が多かった。だがどうもこの教授は大学入学前のオレのイメージに近いらしい。

「…とういことでありまして、まずはこの同意書にサインをしてもらって1日だけ急速人工冷凍、つまり冬眠してもらいます。」
まあ実験の内容を考えれば当然か。それでもオレは迷いなくサインした。

「え、ごめんミホ、ワタシやっぱこわくいやめる。それに彼氏に1日会えないなんてムリ…」

「ちよつとあけみい一緒に冷凍してくれるって約束したじゃない」
なんかいろんな意味でマヌケな会話が隣から聞こえるが気にしないキニシナイ。

「はい、じゃあ一人ずつこのカプセルに入ってください。」「
眼鏡をかけた若干エロティックな白衣の着こなしをする助手(?)の人に案内されると2m強の卵型カプセルがずらりと並んだ大部屋に案内された。

結局さつき言い争ってたあけみさんは帰ったようだ。ミホさんは一人で凍る覚悟ができたらしい。

やっぱり友情より単位ですよね。ま、あけみさん的には友情より彼氏てとこかな。

それよりオレの興味は今もっぱら助手(?)さんの方だ。ていう

か、ありや絶対研究員じゃないな、オレの統計上、理系の女子があらんなフェロモンが出せるはずがない、うん。ありや教授の趣味だなちくしょー！って気持ちをかめて彼女を『場違いの天使』と呼ぼう。

場違いの天使は教授が言わなかったような装置に関する細かい説明を行っているが、オレの頭には全然入ってこない。べ、別に場違いの天使に見惚れてるわけじゃないからね！

と誰にもなく言い訳してしまっただがしょうがない、あの子のエンジェル指数が高すぎるのがいけない。

そんなこんなでオレを含め20人ほどがそれぞれカプセルに入った。扉を閉められたらヒヤツとした感覚と同時にだんだん眠気が襲ってきた…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1942q/>

10000年の冬眠

2011年10月8日13時55分発行